

The Education Institute

委託研究員制度のご紹介と委託研究員経験者の声
～学び続ける教師になるために委託研究員にチャレンジしませんか～

for Private Schools in Japan

委託研究員制度？初めて聞きました

委託研究員制度とは



一般財団法人日本私学教育研究所の「委託研究員制度」は、私学教員として日々の校務をこなしながら、主に実践研究を行う制度です。

毎年全国の私立小学校・私立中学校・私立高等学校・私立中等教育学校の教職員の中から募集しており、国の補助金と日本私立中学高等学校連合会の負担金からなる「研究費」も支給されます。

研究成果は研究所が発行する紀要に報告書を掲載し、年度末には「委託研究員研究成果報告会」で研究成果を発表することで、全国の私立学校の教育の発展に寄与しています。

研究って難しそう・・・

研究テーマについて



委託研究員として取り組む研究は、私立学校での初等・中等教育の実践ならびに私学経営の発展・向上などを図るとともに、私学教職員としての力量向上を目指すものです。私学教育が持つ個性や自主性・先見性などを発揮する上で必要とされる課題解決に役立つ実践研究・事例研究が対象となります。学術的な研究とは多少異なりますのでご安心ください。

これまでの委託研究員の研究テーマ（例） ※過去の研究テーマの詳細は HP をご確認ください。

国語 「新しい古文学習」「生徒の学びを支える言語能力の育成」

外国語（英語） 「持続可能な CLIL 型授業モデルの開発」

数学 「電子黒板を利用した数学授業」「RME 理論に基づく授業のデザイン」

理科 「高等学校における物理教育と数学教育の接続」

地歴公民 「資史料を解釈する力を深める教育実践研究」

保健体育 「体育科における ICT 活用の有効性」「運動動作の可視化」

小学校 「異学年合同学習モデルの構築とその効果」

その他 「自己肯定感を育み、社会性を伸ばす道德教育の研究」

何か良いことがあるのかな？

4つのメリット



委託研究員として研究を行うことは、研究結果を公表する以外にも様々なプラスやメリットを、子どもたちだけでなく、研究員の先生方や周囲の先生方にももたらしてくれます。委託研究を行うことのメリットは多々ありますが、近年アンケート等で多く見かける代表的な4つをご紹介します。

1. 自身と周囲の先生のモチベーション向上

委託研究員という気構えを持つことで、自分自身のモチベーションを高く保つことができ、「いつもの授業」ではない授業に取り組むことができます。委託研究員という立場から、周囲の先生とのコミュニケーションをとるきっかけにもなり、協力も得やすくなります。

2. 生徒に学ぶ姿勢を示すことができる

生徒に対しては「勉強しなさい」「探究活動を」と指導しているのに、「あれ？そういう自分自身は？」という状態では、説得力に欠けてしまいます。「先生も研究員として研究しているんだ。一緒に頑張ろう！」と言えたらカッコいいですね。委託研究員としてのチャレンジは、生徒と一緒に学ぶ機会を作ったり、生徒に学ぶ姿勢を示すことにもなります。

3. 執筆や報告を通じて他校を知り、自分を知る

他の私学の先生方の実践報告を聞く、よい機会となります。また、紀要の執筆や研究成果報告会での発表を通して自分自身の考えをまとめることで、次の教育活動・研究活動の世界が広がっていくでしょう。

4. 研究費が支給される

委託研究員には研究費として200,000円が支給されます（令和3年度実績）。購入不可の物品もありますが、通常ではなかなか実施できない取り組みや、文献の購入、学会の参加などに役立ててください。

どうしたら委託研究員になれますか？

委託研究員になるには



- ①私学教育に5年以上携わり、現在私立小学校・私立中学校、私立高等学校、私立中等教育学校の専任教職員である方。
- ②応募書類提出の時点で満65歳未満の方で、翌年度も同校の専任教職員である方。
- ③委託期間は1年間です。また、委託期間終了後、再応募する場合には、2年以上の期間をあけてください。
- ④毎年30名程度募集しています。

委託研究員になったら！

委託研究員の任務



- ①中間報告書類の提出
研究活動は4月からスタートします。研究に必要な備品を購入したり、学会への出席、学校訪問を行うなど、自身の研究に必要な活動を進めてください。10月中旬には中間報告書類を提出していただきます。
- ②『紀要』原稿の執筆
研究成果は文部科学省への研究報告書に掲載するため、年度末の定められた期日までにおよそ5,000字程度の原稿として提出していただきます。また、その原稿は、当研究所の『紀要』に掲載し、年度末の報告会で、上記原稿に基づいて発表していただきます。
- ③委託研究員研究成果報告会での報告
毎年3月に東京で開催される報告会で、1年の研究成果を発表していただきます。
- ④研究所主催の研修会における講師
当研究所主催の研修会において、講師として研究成果を発表していただくことがあります（委託期間終了後にお願いすることもございますので、予めご了承ください）。

『紀要』は全国の私立小学校・中学校・高等学校・中等教育学校、大学や研究機関、県立図書館などに無料で配本しています。3月の報告会の後に編集を開始し、毎年6月頃には、研究員の先生方にもお届けしてします。



新たな発見と出会いの場

委託研究員研究成果報告会



委託研究員研究成果報告会は、毎年3月中に2日間に分けて実施されます。毎年多くの私学関係者および教育関係者が出席します。近年は、教員志望の大学生・大学院生に対しても門戸を開いており、「教員になりたいという気持ちが強くなった」など、未来の私学教員にとっての学びの場ともなっています。

報告会には小学校・中学校・高等学校、中等教育学校、それぞれの校種の先生が集まるだけでなく、多様な教科・科目を専門とする先生が報告を行います。

自分が専門とする教科・科目以外の報告を聞くことにより、新しい知見や多くの刺激を受けることができます。

普段はあまり関わりのない他の私学の先生との交流も、報告会ならではの光景です。



委託研究員はもちろん、報告会に出席している傍聴者からも積極的な質問が飛び交います。

委託研究員は自らの実践に関する省察を行い、傍聴者は他校の取り組みを知ることで知見を深めることができます。

近年は教員志望の大学生や大学院生も参加しています。

次のページから、実際に委託研究員を経験された先生方のコメントやメッセージを見ることができます。ぜひ、参考にしてください。





研究テーマ

総合的な学習を英語で行う CLIL 授業と
その効果的な評価についての研究

Q1：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

自分の実践の振り返りを行い、その成果を発表することで、お世話になってきた私学のコミュニティの発展に微力ながら貢献したいと思ったことと、何か新しいことに挑戦し、自分の可能性を広げたいと考えて応募しました。

Q2：研究活動を通じて生徒・学校・先生自身にとって良かった点がありましたか

- ・ 研究のプロセスをあらためて確認でき、探究学習の指導の参考になった。
- ・ 学校の広報活動に微力ながら貢献することができたのではないかと感じた。
- ・ 報告会で様々な学校の先生の実践例を伺いつつ、交流することができた。
- ・ 研究テーマがあったことで、1年間自分がブレずに1つのテーマに向かうことができた。

Q3：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

「研究者として教育実践を行う」という体験を初めてしましたが、生徒の変化をより多角的に観察しようという意識が生まれ、それが結果的に自分の実践の質の向上に繋がったのではないかと感じています。このような機会をいただき、本当にありがとうございました。

Q4：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

皆様お忙しいかと存じますが、生徒のために是非頑張ってください。皆様の成果報告から私も学ばせていただければと存じます。



研究テーマ

「博学連携」による思考力・判断力・
表現力を育む日本史教育の考察と
実践的研究

Q1：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

これまでの実践をさらに深めたいと考えていた際に、「研究費という財政的な支援もいただける制度がある」と、職員会議の場で高等科長から委託研究員制度についてアナウンスがあり、チャレンジしてみようと応募しました。

Q2：研究活動を通じて生徒・学校・先生自身にとって良かった点がありましたか

課題をデータとして明確に把握することができました。そしてその明らかになった課題に回答するための方略を具体的に立案することができました。このプロセスを経て、「もっと良い授業をしたい・もっと研究をしたい」と、自らのモチベーションを高めることができました。

Q3：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

令和2年度はコロナ禍での研究となったため、当初の研究計画通りに研究を進めることができなかったこと（特に調査に行くことなど）は非常に残念でした。しかし、そのような環境下においても、得るものは大きかったと感じています。

Q4：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

自らの課題を見つめなおし、その取り組みを成果として公表できる委託研究員制度は、とても有意義な制度だと思います。



研究テーマ

協働学習を通じて学びを深める
理科授業のユニバーサルデザイン

Q1：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

教師になって10年目という節目に何か形として残るものをお願いして応募させていただきました。これまで教科教育に対して深く向き合う時間も少なかったこともあり、今後の教員生活充実に向けても良い機会だと考えました。

Q2：研究活動を通じて生徒・学校・先生自身にとって良かった点はありましたか

・生徒にとって：「新しい学び方」を知ることができた点。学ぶ方法は決して1つではないということ。加えて自ら進んで学ぼうとすることで楽しさや関心が深まった点。

・自分にとって：これまで授業外のことで忙しく、落ちついて教科について考える時間が少なかったが、今回委託研究員として研究する機会をいただいたおかげで、深く自分自身の授業と向き合い、学ぶことができました。

Q3：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

学内の校務と両立する点は非常に大変でした（特に今年はコロナ禍でもあったため）。しかし、ピンチな状況だからこそ見えてきた発想があったとともに、今まであためてきたテーマを1つ形にすることができて良かったと思います。今回の取り組みを、今後の入口として活用していきたいと考えています。また、授業というものの重要性を再確認することができました。

Q4：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

チャレンジしようと思った時が、チャンスの時だと思います。私自身も応募に際して迷いましたが、最終的には思いきって応募して良かったと思っています。何よりも、今回のような経験は自分にとっても意味のあることですが、一番は「生徒のため」になるものと確信しています。ぜひ、未来を担う生徒のために、先生方の挑戦を同じ教師の一人として期待しています。

立命館宇治中学校・高等学校（京都府）

砂川 真璃 先生（社会科・公民科）



研究テーマ

SDGs の意識を涵養する
社会科地理分野のカリキュラム開発

Q1：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

教員になってから目の前のことに精一杯で、自分自身の教育活動を振り返る機会がありませんでした。委託研究員に応募して研究活動を行うことで、授業のあり方を見つめ直したいと思い、応募しました。

Q2：研究活動を通じて生徒・学校・先生自身にとって良かった点がありましたか

「委託研究員として選ばれたからにはやらなければ！」という思いがあったからこそ、新しい授業スタイルに挑戦することができました。授業ではグループワークも多く取り入れたことで、生徒たちも自分自身で考え、話し合いなども主体的に行ってくれました。何より、授業を楽しんでくれるようになったことが一番嬉しかったです。

Q3：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

今年度はコロナウイルスの影響で ZOOM を通しての授業から始まったこともあり、改めて授業のあり方は1つではないと感じました。「生徒たちと一緒に授業を作る」という経験ができましたし、アンケートを通して生徒からのフィードバックももらったので、私自身も大変勉強になり、「生徒と一緒に学ぶ」ことができました。今後の教育活動につながる有意義な1年となりました。

Q4：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

委託研究員になることによって、普段なら「ある程度」で留めてしまっている教育活動の改善や振り返りを、集中して行うことができます。報告会で経験豊富な先生方と交流することができ、他校とのつながりもつくることのできる貴重な機会ですので、ぜひチャレンジしてください。

令和3年度 委託研究員研究成果報告会のご案内

- 日時 令和4年3月12日（土）及び令和4年3月19日（土）の2日間
両日とも10時～17時20分 ※1日のみ・部分参加も可能です。入退室自由。
- 会場 主婦会館プラザエフ 7階「カトレア」
※オンラインによるLIVE配信を予定しております。

アクセスマップ



〒102-0085 東京都千代田区六番町15

JR「四ツ谷駅」麹町口 徒歩1分

東京メトロ丸ノ内線「四ツ谷駅」1番出口 徒歩3分

◆ [第1回] 令和4年3月12日（土）

9:30	10:00	10:20						17:00	
受付	開会式	研究成果報告A			昼食	研究成果報告B			質疑応答・講評・ 閉会式
		No.1~3	休憩	No.4~7		No.8~11	休憩	No.12~15	

◆ [第2回] 令和4年3月19日（土）

9:30	10:00	10:20						17:00	
受付	開会式	研究成果報告C			昼食	研究成果報告D			質疑応答・講評・ 閉会式
		No.16~18	休憩	No.19~22		No.23~26	休憩	No.27~30	

※報告順は未定です。令和3年12月中に改めて当研究所HPでお知らせいたします。

※昼食のご用意は致しませんので、近隣の飲食店をご利用ください。なお、昼食時間は13:00～14:00を予定しておりますが、報告人数などにより変動する場合がありますのでご了承ください。

※運営上の都合により、一部日程が変更になる場合もございますので、予めご承知おきください。

令和3年度 委託研究員 研究第目（研究領域 / 学校名 / 研究員氏名）※順不同・敬称略
英語力と賞賛獲得欲求（英語科 / 北星学園女子中学・高等学校 / 藤原 功生）
自由参加のワークショップを活用した新たな教員研修モデルの確立（理科 / 札幌日本大学中学・高等学校 / 村山 一将）
修学旅行（校外研修旅行）を通じたグローバルリーダーシップの育成（理科 / 立教新座中学・高等学校 / 島野 誠大）
想像力・課題設定力・表現力を養う理数探究・情報科授業の開発（数学科 / 聖光学院中学・高等学校 / 名塩 隆史）
地域社会における多文化共生・グローバル教育の探究（社会科 / 神奈川学園中学・高等学校 / 小川 輝光）
探究的学びを創出する教師マインドをつくる新人研修会のデザイン（理科 / 鶴見大学附属中学・高等学校 / 宮川 真理子）
地理総合に向けた防災教育の提案（地理歴史科 / 桐蔭学園中学・高等学校 / 石橋 生）
Kahoot! を活用したアクティブラーニングとインタラクティブな授業デザイン （理科 / 湘南工科大学附属高等学校 / 佐藤 由恵）
中学「哲学」のカリキュラム開発と運営体制の構築（公民科 / 東洋大学京北中学・高等学校 / 石川 直実）
海外大学進学サポートの研究（英語科 / ドルトン東京学園中等部 / 佐藤 貴明）
社会科（地理）を軸とした教科横断型授業（地理歴史科 / 鷗友学園女子中学・高等学校 / 吉田 裕幸）
CLIL × 探究 × ICT 授業モデルの開発（英語科 / 三田国際学園中学・高等学校 / 長野 里香）
デジタルポートフォリオの蓄積における新聞記事の活用（公民科 / 十文字中学・高等学校 / 浜 彰史）
食から見つめる国語教育（国語科 / 法政大学中学・高等学校 / 林 圭介）
グローバル社会（コロナ禍）における、子どもたちが明るい未来を切り開くための教材、英語による調理実演動画の制作 （英語科・家庭科 / 遊学館高等学校 / 加藤 道子）
探究的な学びの推進と教科学力との相関に関する研究（理科 / 浜松学芸中学・高等学校 / 細谷 賢行）
ホームルーム活動における ICT の活用（理科 / 東山中学・高等学校 / 藤嶋 雄大）
中学社会科・高校公民科における ICT の利活用と統計の学習を通じた社会科学教育の可能性をさぐる （社会科 / 洛星中学・高等学校 / 児玉 英靖）
ICT を活用した学校全体の授業改善の可能性（情報科 / 華頂女子中学・高等学校 / 酒井 知果）
地域（博物館等）を活用した歴史の授業プログラムの開発（検討）（地理歴史科 / 京都産業大学附属中学・高等学校 / 中尾 健二）
総合的な探究の時間のカリキュラム・教材・評価の開発と実践（地歴公民科 / アサンプション国際中学・高等学校 / 岡本 弘之）
高校生のための金融経済教育の一考察（社会科 / 四天王寺東中学・高等学校 / 成田 裕政）
STEAM 教育構築のために EdTech を活用したブレンデッド・ラーニングの授業デザイン （理科 / 早稲田摂陵中学・高等学校 / 田中 利典）
「個別最適な学び」と「協同的な学び」から育む「主体的・対話的で深い学び」を実現するキャリア教育授業デザイン （数学科 / 甲南高等学校・中学校 / 花野 勝幸）
すべての教職員でつくる探究のデザイン（国語科 / 盈進中学・高等学校 / 上山 朋子）
ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現する歴史授業のアクション・リサーチ （社会科 / 高水高等学校・附属中学校 / 西村 豊）
「UFOC 活動～ Ube Free open club 未確認な友人と同じ目標を目指そう～」の企画・運営 （家庭科 / 宇部フロンティア大学附属中学校・香川高等学校 / 重村 直子）
近未来の宇宙居住を主題にした PBL への取り組み（理科 / 斉美高等学校 / 小林 智美）
SDGs に向けて、聴き合い活動を基盤とする「ICT」を活用した交流の研究 （社会 / 福岡海星女子学院附属小学校 / 富田 健一郎）
IB 教育を日本の学校教育で活かす（英語科 / 鹿児島修学館中学・高等学校 / 新名主 敏史）



所在地

〒102-0073

東京都千代田区九段北 4-3-8 市ヶ谷 UNビル 6階

TEL : 03-3222-1621

FAX : 03-3222-1683

アクセス

JR 総武中央線 市ヶ谷駅 徒歩 5分

東京メトロ有楽町線・南北線、都営新宿線 市ヶ谷駅 A4 出口 徒歩 3分

一般財団法人

日本私学教育研究所

-The Education Institute for Private schools in Japan-

研究所のホームページから最新の研修会情報や、紹介動画をご覧ください。ぜひ、ご活用ください！

